



Buddycomを導入して良かったこと

“記録システムとBuddycomの併用で、 1人あたり月間15~20時間の効率化を実現

介護

福祉施設



Buddycomを活用したリアルタイムでの情報共有が増えたことで、『伝わりやすさ』が増しました。

例えば、申し送り用のノートに文字を書いても、ニュアンスや温度感は音声のほうがずっと伝わりやすいため、より簡単に、より深く情報共有ができるようになりました。全員に一齐に伝えることができるため、ケアに大切な情報を「知っている人と知らない人がいる」といったバラつき、「聞いた・聞いていない」の確認がなくなったことが業務上とても大きなメリットです。

1:1でのお客様対応で迷うこともあります。その際も、Buddycomで質問をすれば同僚がまるでいつも隣にいるように答えてくれる、これはとても大事なことで、スタッフに疎外感を感じさせないことで、スタッフの定着にもつながっています。



Buddycom バディコム



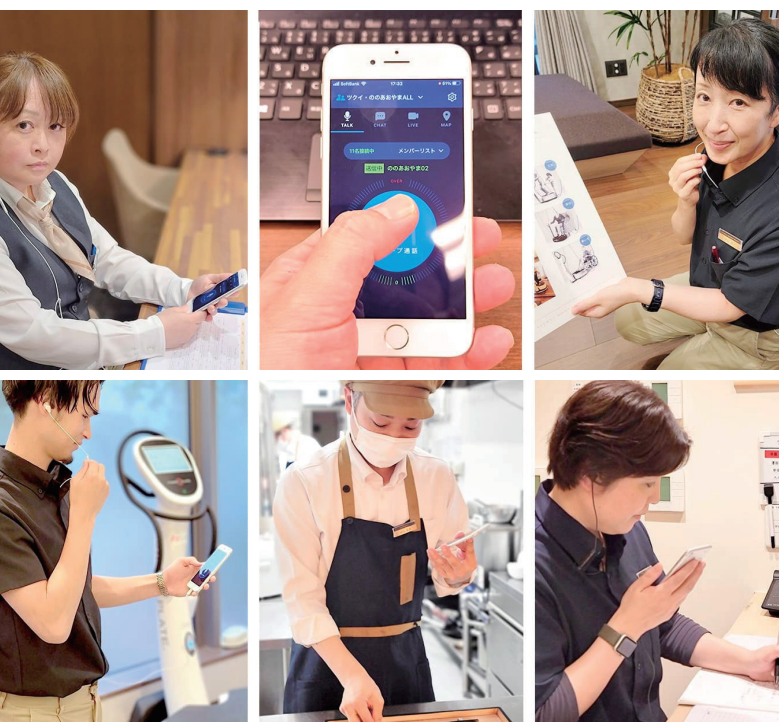


導入前の課題

従来はPHSや内線を利用しての連絡や集合形式での情報共有が主な手段でしたが、各スタッフへの伝達には遅延があり、漏れを防ぐために付箋やメモへの転記、内容確認のために職員はステーションと往來するといった非効率な動線、そして適時性に欠けるという問題がありました。

導入した理由

ケア記録システムを導入するにあたり、介護スタッフ全員がスマートフォンを持つことになりました。即時の連絡や情報共有に従来型の無線機も検討しましたが、スタッフの持ち物が増えることに懸念があり、スマホでインカムが利用できないか検討したところ、Buddycomに出会い導入に至りました。



18の居住系介護施設で Buddycomを 429台利用中。

現在ツクイでは、スタッフの業務負担軽減とサービス品質向上のため、ICTツールを組み合わせた業務ツールをスマートフォンに集約することを前提に現在iPhoneを導入しており、Buddycomを18施設429台利用しています。ツクイが運営するサービス付き高齢者向け住宅「ツクイ・ののあおやま」の場合、以下のような利用シーンがあります。

- お客様の入浴前などの再検査連絡
- レストランやレクリエーション、お風呂など、お客様のご案内や移動介助の連絡
- 状況の共有や依頼、確認
- 施設への来訪時の連絡
- 緊急時のヘルプ
- 外出先からの連絡や確認
- 予定周知
- スタッフの所在の確認

導入検討中の方へメッセージ



現場のリアルタイム連携と発信される情報の価値をどのように捉えるかがカギとなると思います。費用面ではスマートフォンやタブレットにインカム以外の役割を持たせることも重要になると思います。

Buddycomだから出来たコト



フロア内、フロア間、事務所、レストラン、フロント全てが繋がりが、一体的チームケアが確立できています。手が空いたら協力するなど、働き方が変わってきました。

業務中の情報共有がリアルタイムで交わされるため、ののあおやまでは夕礼は行っていません。それぞれの場所にながら、情報発信ができるので、いずれは朝礼も顔を合わせずにはしたいと思っています。



株式会社サイエンスアーツ

WEB: www.science-arts.com
Service: www.buddycom.net
お問い合わせ: info@science-arts.com

